

平成8年度
高校生建築デザインコンクール

自然誌ふれあい交流館



**ARCHITECTURE
COMPETITION'96**





ごあいさつ

近年、公共建築物は地域住民の生活に深い関わりをもち、街並み景観を構成する地域のシンボルとして、また、地域住民のコミュニティ活動の場として、人々に愛される施設とすることが求められています。

北海道では、道民に愛され親しまれる公共建築づくりを進めていくため、21世紀を担う建築技術者となる道内の工業高校の生徒から、夢のあるユニークなアイデアを募集することとし、高校生建築デザインコンクールを実施しました。

今回のコンクールは、第1回目にもかかわらず多数の生徒から個性あふれる素晴らしい作品が寄せられましたことは、公共建築に対する関心の高さをうかがい知ることができ、誠に喜ばしい限りです。

今後は、最優秀作品の創造性あふれるアイデアを生かし、道民に親しまれる施設づくりを進めるよう最善を尽くしてまいりたいと考えております。

終わりに、本コンクールの実施に当たり多大な御協力を賜りました学校関係各位に厚くお礼申し上げますとともに、御応募いただいた皆様方の今後の御活躍をお祈り申し上げます。

平成9年1月

北海道住宅都市部長 松田 寿夫

コンクールの概要

- 課題 自然誌ふれあい交流館(仮称)
- 設計条件 所在地 野幌森林公園内
(江別市西野幌 685番地)
敷地面積 約 1,000㎡
延床面積 約 500㎡
構造 木造平屋建
- 提出図面 JIS規格A2判1枚に下記の全ての図面を描く
・設計主旨・配置図(1/200)
・平面図(1/100)・断面図(1/100)
・立面図(1/100)・スケッチ・建築概要
- 応募資格 北海道内の工業高校の建築学科に在籍するもので、個人又は5名以下のグループ
- 応募状況 応募総数75点
- 審査経過 第1回選定委員会 平成8年5月17日
・募集要項を審議、決定
募集要項配付 平成8年6月6日
・各学校を通じ配付
作品受付 平成8年9月10日～11日
・各学校を通じ応募
第2回選定委員会 平成8年9月17日～18日
・最優秀作品賞1点、優秀作品賞3点、佳作4点、特別奨励賞6点を選出
- 審査委員
委員長 辻 博司 (北海道住宅都市部営繕室建築課長)
委員 青柳 正英 (北海道保健環境部環境室自然保護課長)
" 川崎 三男 (北海道立札幌高等技術専門学院職業訓練専門員)
" 佐藤 俊 (北海道教育庁生涯学習部学校教育課指導主事)
" 清水 勲 (北海道生活福祉部青少年室参事)
" 松村 佳明 (北海道野幌森林公園事務所総務部長)
" 脇田 宏行 (北海道住宅都市部建築指導課長)

審査のポイント

- 高校生らしいユニークさにあふれているか。
- 完成度とは別に、十分に考えられた案であるか。
- 設計の狙い(コンセプト)、デザインに魅力があるか。
- 実現は難しくとも夢があるか。
- 立地条件(自然の中に建設される)を活かしているか。



審査委員長

北海道住宅都市部営繕室建築課長 辻 博司

今回のコンクールは第1回目であり、課題は道立自然公園野幌森林公園内に建設する「自然誌ふれあい交流館(仮称)」で、公園内の施設や行事の紹介、生物や自然に関する展示などを行う公園内のシンボルとなる施設です。

最優秀に選ばれた作品の提案主旨は施設の設計に生かされるという、高校生にとって夢のあるコンクールであり、全道の工業高校に募集を呼びかけたところ、13校から75点もの作品が寄せられました。中にはグループで制作した作品もあり、参加総数は130名にも及びました。

選定委員会は、9月17日、18日の2日間で開催し、①高校生らしいユニークさにあふれているか、②完成度とは別に十分に考えられた案であるか、③設計の狙い(コンセプト)、デザインに魅力があるか、④実現は難しくとも夢があるか、⑤立地条件(自然の中に建設される)を活かしているかをポイントに、最優秀作品賞1点、優秀作品賞3点、佳作4点、特別奨励賞6点を選出しました。

最優秀作品賞に選ばれた橋本雄司君の作品は、建物を「一枚の葉」に見立てたユニークなアイデアで、「森林公園の景観を壊さないこと、そこに住む動物、鳥、昆虫等に違和感を与えないこと」を設計主旨としています。葉脈のような骨組みは道産丸太材を使用、外壁は丸太半割張りとするなど森林公園の豊かな自然と調和させる工夫が凝らされています。専門家には思いつかないような意外性のある発想が高く評価されました。

優秀作品賞の佐藤圭一君、芳賀広幸君、須貝公一君、藤井大介君、齋藤将志君(グループ応募)の作品は、建物全体で「樹」をイメージしており、「枝」が発想の原点かと思われます。周囲の自然に見事にマッチしており、中庭を設け解放感を演出しているのも好感が持てます。

優秀作品賞の柏谷秀一君の作品は、平面的には斜めの軸を活かしたデザインで、建物の維持管理の面からも使いやすく、また、強度面にも優れた、完成度の高

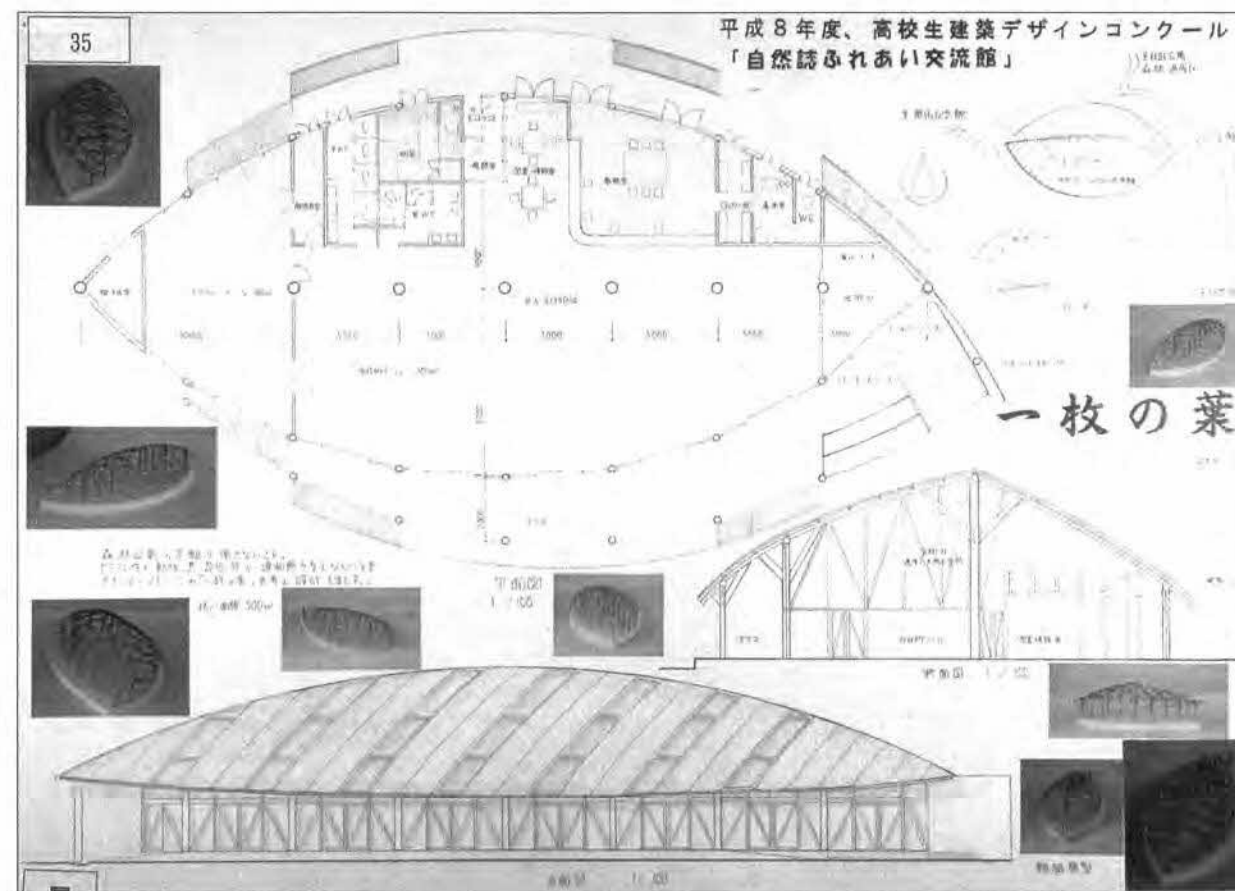
い作品です。

優秀作品賞の越田陽子さんの作品は、六角形の建物を三つ組み合わせたデザインが特徴的で、おしゃれな外観を創り出しています。窓から憩いの広場を眺めることができる配置とするなど、周囲に自然にも配慮した作品です。

このほか、佳作や惜しくも入賞を逸した作品の中にも、高校生らしい斬新な発想の作品が数多く見受けられ、当初予定していた各賞のほか、選定委員会において、特に努力や工夫が認められた作品6点に対し特別奨励賞を贈ることとしました。

全体としてレベルが高かったことは非常に喜ばしいことであり、今後もこのコンクールを継続していきたいと考えています。

このコンクールを通じ、近い将来の北海道の建築デザインの水準が一層向上することを期待したいと思います。



設計主旨

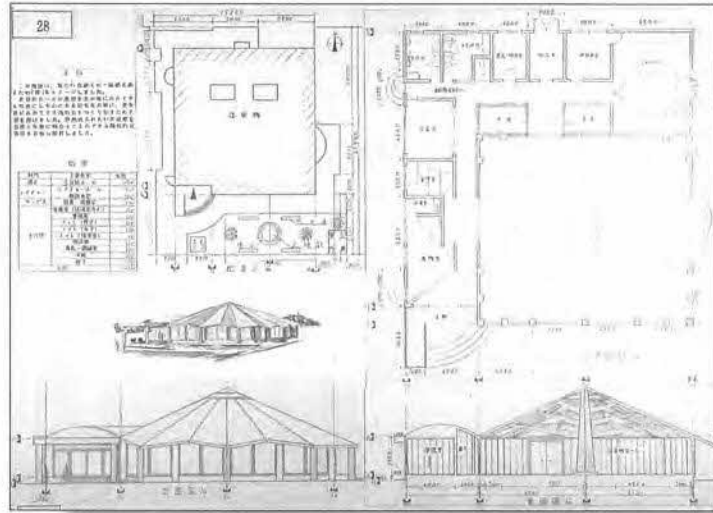
森林公園の景観を壊さないこと。
そこに住む動物、鳥、昆虫、等々、違和感を与えないことをメインテーマに、この「一枚の葉」を考え設計しました。

橋本 雄司

美唄工業高等学校 3年

優秀作品賞

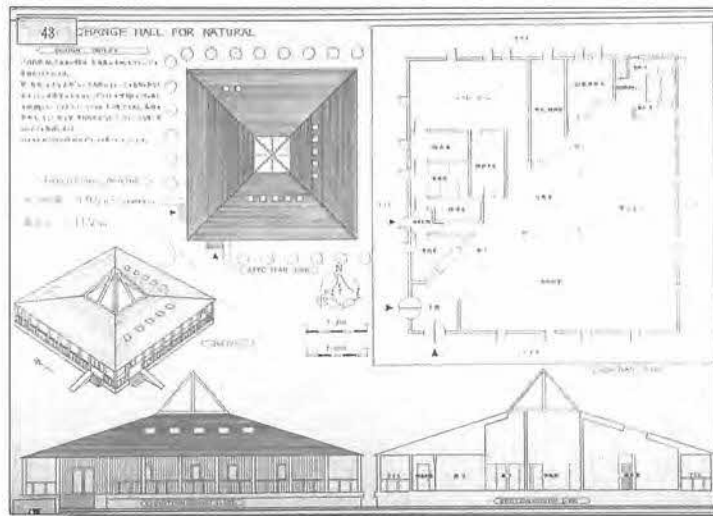
佐藤 圭一
芳賀 広幸
須貝 公一
藤井 大介
齋藤 将志
(グループ)
北見工業高等学校 2年



設計主旨

この施設は、周りの自然との一体感を表すため「樹」をイメージしました。
多目的ホールの屋根を木の傘にみたて中を吹抜にし中心にある柱を木の幹に、梁を枝にみたてて木漏れ日をつくり出すため天窓を設けました。自然誌ふれあい交流館を自然と気軽に触れ合うことのできる開放的な場所を目指し設計しました。

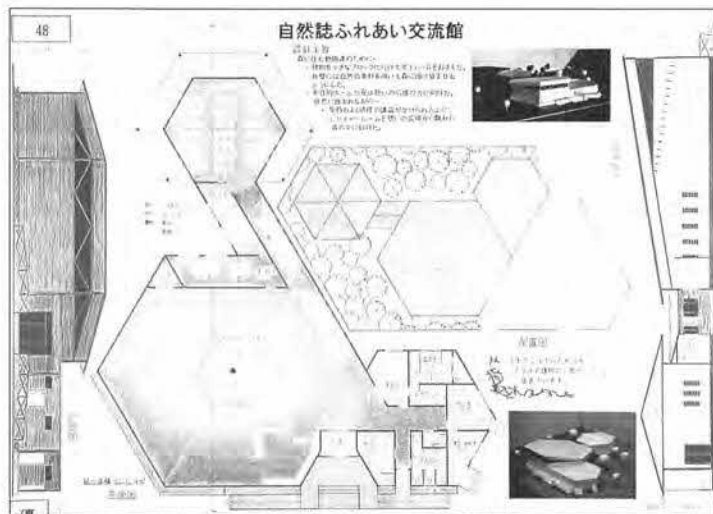
柏谷 秀一
札幌工業高等学校 3年



設計主旨

この自然誌ふれあい館は、北海道のイメージを具体化したものです。
“空・森林・広大な大地”など北海道のイメージを各室に取り入れました。休憩室の天井はトップライトを使用して、空の青さを強調させ、テラスとインテリアは、木の暖さを出し、森林の恩恵を、そして、展示室、多目的室は“ウォーミングムーヴ”を使い、室内の広さを強調しました。
以上の点が今回の設計でポイントを置いたところです。

越田 陽子
函館工業高等学校 3年



設計主旨

森に住む動物たちのために…
・建物を小さなブロックに分けてボリュームをおさえた。
・外壁には自然の素材を用いて森に溶け込ませるようにした。
・多目的ホールの窓は憩いの広場の方に向けた。
自然に囲まれながら…
・気持ちよく研修や講習が受けられるようにレクチャールームを憩いの広場から離れた森の中に設けた。

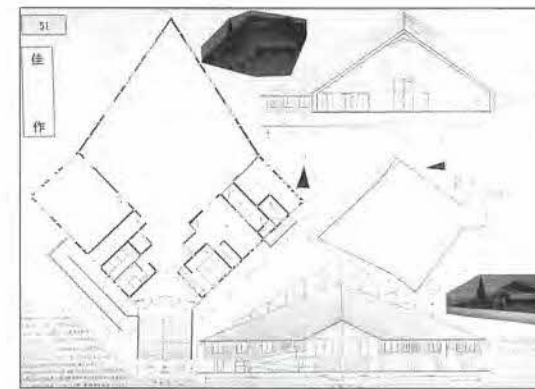
佳作



設計主旨

今回の作品を製作するにあたり、江別市の現地を見ることはできませんでした。しかし、森林公園に設計される施設なので木の年輪をイメージして、建築物と前庭の一体化を図りました。少ない面積の中でも広く開放的なスペースに見せるような構造で、多目的ホールの入口や窓口なども広く取り、わかり易く、安心して利用できる設計としました。

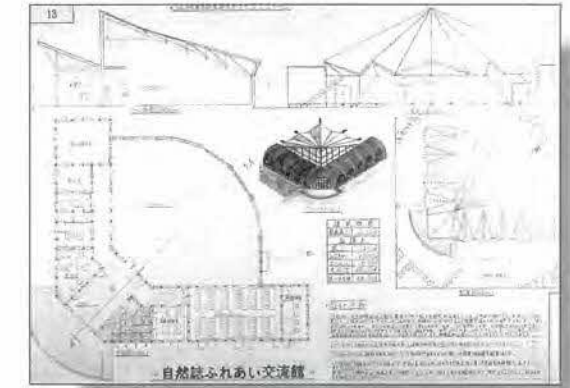
松井 淳
帯広工業高等学校 3年



設計主旨

大自然の代名詞、北海道の地形をイメージ、すなわち、菱形を基調とし、だれにでも親しめるようなBig landにしました。又、菱形を基調とした外形にマッチするように、内部の間取りもそれにそうようにして、多目的ホールを上部中央にもうけ大きく西ウィングスペース、東ウィングスペースに分けそれぞれ用途に合わせて室を配置しました。
その他、より多くの自然の光を取り入れるためにハイサイドライトや天窓を取り入れ、基礎をやや高くピロティーとすることによって地表を保存しよう、自然保護にも配慮しました。

吉田 一彦
札幌工業高等学校 3年



設計主旨

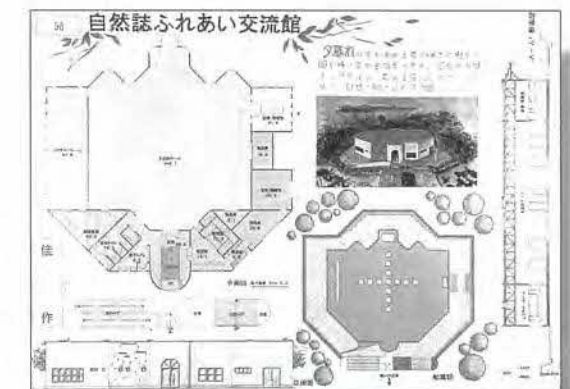
江別市にある野幌森林公園は、貴重でかつ雄大な自然が存在している。江別市の街の文化は、先人の開拓者によって築き上げられてきた。今、江別市は、札幌市のベッドタウンとして開発が進んでおり、自然が少なくなりつつあるので自然との共生が、これからの社会には必要だと考えられます。私は、この「自然誌ふれあい交流館」の設計計画を通して、「自然と人々の出会い」また、子供からお年寄りまで、誰もが気軽に「自然とのふれあい」ができることをメインに考え、同時に北海道独特の四季の変化も楽しむことが出来る場として、また、野幌森林公園のシンボルとなるよう、デザインしました。

○メインである多目的ホールは、天井は極力高くし、屋根の形は鳥が羽ばたく時の羽の形をイメージしました。

○レクチャールームは、解説員室を設け、そこで勉強ができるように隣には図書・情報室を配置しました。

この建物の外観はカナディアン風のデザインを取り入れ、おもむきのある落ちついた雰囲気になるように考え設計しました。
最後に、この建物が北海道の美しい自然にだけこみ、映えるそんな環境の中で、「自然と人」「人と人」がふれあえる施設になってもらいたい。

泉 智生
室蘭工業高等学校 3年

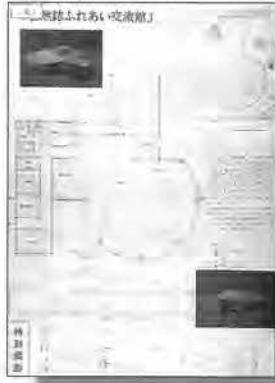


設計主旨

夕暮れ空を流れる雲の輝きや樹々の間で移り変わる四季の色を、屋根の水盤、トップライト、零れる落水に映すことにより、自然に駆け込む交流館とした。

平瀬 愛
函館工業高等学校 3年

特別奨励賞



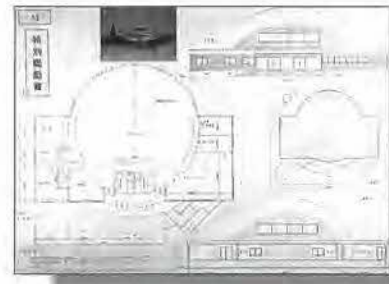
設計主旨

この施設は、あらゆる年齢層の人々が自然に対する興味と理解を深め、実際の活動を通じて自然とふれ合い親しみをもつようになることを目的としました。外回りには緑化樹や芝生を多く設けることによって周囲の自然と融合するようにしました。

多目的ホールは南に面する部分の壁をガラス張りとし、光をとり入れやすくすると共に、館内で自然を観察することができるようにしました。又所々にプランターを置いて植物を植え、自然との一体化をはかるようにしました。天井は円すい状にして高さを入れ、又、木肌をみせるようにし明るく開放的な空間としました。

館内の中央部分は広いスペースをとり、臨時の展示会やイベントにも対応できるつくりとしました。このような特徴をもち森林公園内のシンボルとなり永く道民に親しまれる建築物となることを目的に設計しました。

青井 隼人 加藤 慈
高住 昇 橋本 忍
村山 昌史 (グループ)
旭川工業高等学校 3年

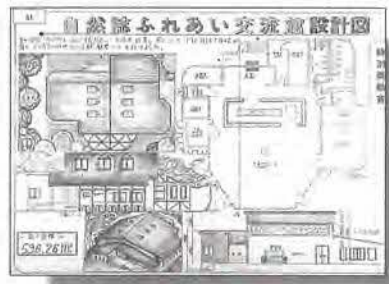


設計主旨

自然との調和を考え、主目的とし、そのやさしさを表現するため多目的ホールの曲線での構成を試みた。又、一部の屋根をドーム状にし、やわらかいイメージを与える様にした。

ドームの一部にはハイサイドライトを取り入れ、自然の光が生かされる様にした。

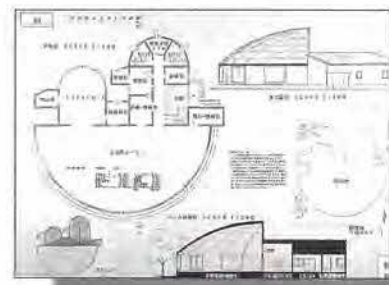
成田 陽一
札幌工業高等学校 3年



設計主旨

明るい多目的ホールにするために、天窗を設置し、展示コーナーでは、樹木で仕切り、また、屋外の休憩場には自然観察コーナーを設けました。

土佐 和香子
留萌工業高等学校 3年

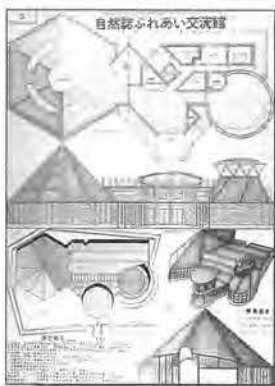


設計主旨

この建物を設計するにあたって最も重要視したところは、建物内部に開放感を与えることでした。内部にいるのに外にいたい。つまり人工物なのに自然みたいというところに着目したところからこの大きなガラス張りのドームが生まれました。

建物全体は、ドームを鳥の巣に見立てて「親をまつ2羽の子鳥」をテーマにデザインしました。親はどこにいったのか、親は何なのか、そしていつ帰ってくるのかはあなたがたの想像におまかせしますが、少なくともここに自然があるかぎりこの子鳥達がいなくなることはないでしょう。

熊谷 和幸
釧路工業高等学校 3年



設計主旨

江別市は、札幌市から約18kmに位置し大変自然に恵まれた土地です。その南にある野幌森林公園は広大な森林があり、動植物が多く住んでいる自然の場所で四季の中で、様々な風景をあげることが出来る場所です。自然観察園内に「自然誌ふれあい交流館」を設計することになりました。私の設計のポイントは、

- ・外観は、採光を取り入れるために、ガラス面を多くする。
- ・平面プランは、有機的に機能出来るように、各棟を別にする。
- ・公園内に溶け込むようなデザインにする。
- ・身体障害者の利用にも対応できる。

と、なるように設計しました。そこで、各部門をまとめると、(レクチャールーム)

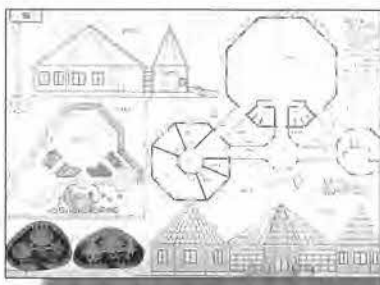
ガラスによる塔であり、学習しながら自然を体験できる。(多目的ホール)

正六角形の平面であり、自然光を充分取り入れることができる。(その他空間)

円形の柱を用いて、冬期間に活用できるように二重構造とする。のようになりました。

この建築物は、四季の変化や草花などの自然環境を最大に活かした建物であり、たくさんの人々が訪れ、自然について学習し、心身のゆとりを感じてもらいたいと思います。

堀田 圭二
室蘭工業高等学校 3年



設計主旨

童話やおとぎ話は私たちの心を大きく育て、今、尚そのイメージが心の中に強く残っている。その象徴が森であり、温もりのある家である。

北海道の大自然は今にも妖精が飛び出して来そうな程、不思議で美しい。

その大自然の中に溶け込むような、メルヘンチックな建築物を設計しました。

この配置の特色は各ゾーンを廊下でジョイントし、廊下は「森」「川」「鳥」のイメージを持たせ、それぞれ自然との調和を計らせる試みをしてみました。

三つの棟はそれぞれの用途を果たせるよう独立させました。

中谷 晴子
札幌工業高等学校 3年

平成8年度高校生建築デザインコンクール 応募者一覧

《旭川工業高等学校》 (8作品 40名)

○青井 隼人 (3年)
加藤 慈 (3年)
高住 昇 (3年)
高橋 忍 (3年)
村山 昌史 (3年) (5名グループ)

○松田 秀次 (3年)
佐藤 未幸 (3年)
荒川 武士 (3年)
平吹 友美 (3年)
佐藤 弘教 (3年) (5名グループ)

○黒崎 祐介 (3年)
浅田 祐介 (3年)
安達 千峰 (3年)
熊谷 寛樹 (3年)
二本柳 裕美 (3年) (5名グループ)

○山田 敏弘 (3年)
松倉 輝和 (3年)
木村 香織 (3年)
野原 千絵子 (3年)
多田 一裕 (3年) (5名グループ)

○夏坂 泰輔 (3年)
大川原 収哉 (3年)
武石 陸広 (3年)
義達 智 (3年)
伊藤 未華 (3年) (5名グループ)

○石澤 貴浩 (3年)
神田 勇気 (3年)
草薙 好美 (3年)
沢口 夕佳 (3年)
長谷川 謙二 (3年) (5名グループ)

○武田 壮平 (3年)
谷口 義全 (3年)
石井 拓人 (3年)
杉崎 周吾 (3年)
河村 香織 (3年) (5名グループ)

○波部 聡啓 (3年)
半澤 貴博 (3年)
生出 亜由美 (3年)
工藤 亜弥 (3年)
松澤 誓士 (3年) (5名グループ)

《小樽工業高等学校》 (1作品 2名)

○東 かおる (3年)
村居 千恵 (3年) (2名グループ)

《帯広工業高等学校》 (1作品 1名)

○松井 淳 (3年)

《釧路工業高等学校》 (8作品 12名)

○熊谷 和幸 (3年)

[特別奨励賞]

○武田 英樹 (3年)
○横内 健博 (2年)
○八戸 洋輔 (3年)
○荒木 ユイ (3年)
佐々木 久美 (3年)
横山 孝臣 (3年) (3名グループ)
○安代 拓郎 (2年)
○村上 隼仁 (2年)
○横山 孝臣 (3年)
佐々木 久美 (3年)
荒木 ユイ (3年) (3名グループ)

《札幌工業高等学校》 (26作品 29名)

○柏谷 秀一 (3年) [優秀作品賞]

○吉田 一彦 (3年) [佳作]

○成田 陽一 (3年) [特別奨励賞]

○中谷 晴子 (3年) [特別奨励賞]

○早坂 美奈子 (3年)

○市川 洋行 (3年)

○中山 寛之 (3年)

○三好 建夫 (3年)

○山田 高敏 (2年)

鈴木 暁嗣 (2年)

岸本 光晴 (2年) (3名グループ)

○能登屋 明枝 (3年)

○須藤 美優紀 (3年)

○久守 路子 (3年)

○伊藤 羊一 (3年)

○下段 浩二 (3年)

○日下部 洋也 (3年)

○波部 深雪 (3年)

○千田 絵梨香 (3年)

○谷口 康平 (3年)

伊藤 嘉章 (3年) (2名グループ)

○福井 隆介 (3年)

[佳作]

[特別奨励賞]

- | | | |
|----------------------|-----------------------|--|
| ○高野 敏行 (3年) | ○高橋 和弘 (3年) | |
| ○田村 史穂 (3年) | ○松尾 小弥香 (3年) | |
| ○勝碓 万将 (3年) | ○山田 真理 (3年) | |
| ○小笠原 洋幸 (3年) | ○松本 芳典 (3年) | |
| ○新谷 友子 (3年) | ○斎藤 直美 (3年) | |
| ○古屋敷 悟 (3年) | ○弓削 忍 (3年) | |
| ○追山 公宏 (3年) | 《北見工業高等学校》 (4作品 18名) | |
| 《留萌工業高等学校》 (6作品 6名) | ○佐藤 圭一 (2年) [優秀作品賞] | |
| ○土佐 和香子 (3年) [特別奨励賞] | ○芳賀 広幸 (2年) | |
| ○新谷 美妃 (3年) | ○須貝 公一 (2年) | |
| ○大矢 智幸 (3年) | ○藤井 大介 (2年) | |
| ○佐藤 有紀 (3年) | ○齋藤 将志 (2年) (5名グループ) | |
| ○石井 貴慶 (3年) | ○蜂谷 愛 (2年) | |
| ○佐藤 嘉成子 (3年) | ○太田 元宏 (2年) | |
| 《苫小牧工業高等学校》 (1作品 2名) | ○荒島 直也 (2年) | |
| ○磯田 章子 (3年) | ○丸山 さつき (2年) (4名グループ) | |
| 立花 将太郎 (3年) (2名グループ) | ○篠原 裕介 (2年) | |
| 《名寄工業高等学校》 (5作品 5名) | ○野崎 兼太郎 (2年) | |
| ○細川 博美 (3年) | ○田島 博光 (2年) | |
| ○相場 貴達 (3年) | ○熊谷 和明 (2年) (4名グループ) | |
| ○塚田 悟之 (3年) | ○東 照之 (2年) | |
| ○渡辺 正人 (3年) | ○赤松 学 (2年) | |
| ○山下 泰彦 (3年) | ○大谷 誠 (2年) | |
| 《函館工業高等学校》 (2作品 2名) | ○菊地 秀典 (2年) | |
| ○越田 陽子 (3年) [優秀作品賞] | ○高野 純 (2年) (5名グループ) | |
| ○平瀬 愛 (3年) [佳 作] | 《旭川実業高等学校》 (2作品 2名) | |
| 《美唄工業高等学校》 (2作品 2名) | ○佐藤 美和 (3年) | |
| ○高橋 雄司 (3年) [最優秀作品賞] | ○平泉 拓也 (3年) | |
| ○佐藤 のぞみ (2年) | | |
| 《室蘭工業高等学校》 (9作品 9名) | | |
| ○泉 智生 (3年) [佳 作] | | |
| ○堀田 圭二 (3年) [特別奨励賞] | | |
| ○松坂 康祐 (3年) | | |
- 計 75作品 130名

学校別 応募作品数一覧

高校名	応募作品数
北海道旭川工業高等学校	8
北海道小樽工業高等学校	1
北海道帯広工業高等学校	1
北海道釧路工業高等学校	8
北海道札幌工業高等学校	26
北海道留萌工業高等学校	6
北海道苫小牧工業高等学校	1
北海道名寄工業高等学校	5
北海道函館工業高等学校	2
北海道美唄工業高等学校	2
北海道室蘭工業高等学校	9
北海道北見工業高等学校	4
旭川実業高等学校	2
計	75

発行 北海道住宅都市部営繕室建築課
 札幌市中央区北3条西6丁目
 TEL 011-231-4111 内線29-613
 印刷 富士プリント(株)

平成9年1月発行